

# 情報共有し、換気と消毒の徹底で感染防止

## 仙台市台原デイサービスセンター／清山会医療福祉グループ

新型コロナウイルス感染症に人一倍神経を尖らせているのが介護・福祉施設。高齢者は重症化のリスクも高く、また、施設内で感染が広がれば介護崩壊を招くことにつながる。仙台市で集団感染が発生したのは、市が仙台市社会福祉協議会に委託して運営している仙台市台



10月1日、ボランティアで施設内の手の触れる部分や送迎車などに、抗菌・抗ウイルスコーティングを実施し、エアコンフィルターも設置してくれた

原老人福祉センターに併設された「台原デイサービスセンター」(青葉区)で、感染者はスタッフと利用者計10人。仙台市の保健所の調査によると、同センターの感染は2回以上に分けて広がったと見られている。利用者によって利用日が異なるため、誰が発端かは不明だという。

仙台市の老人福祉センターは60歳以上の仙台市民なら誰でも利用できる通所型施設で、市内に8カ所あり、一部では送迎サービスも行っている。趣味の教室や講座への参加のほか、風呂も無料で利用できる。台原デイサービスセンターは理学療法士が運動メニューを提案してくれる機能訓練ができる施設で、月曜から

土曜、祝日も運営している。曜日によって利用人数は異なるが、1日平均10〜20人、利用登録者は50〜60人いる。市では高齢者が利用する施設であることを踏まえ、感染者が出る前から消毒の徹底など、感染防止策を行っていたという。市健康福祉局保険高齢部高齢企画課の白岩靖史課長は「10人の感染者が判明しましたが、それ以上広がらなかったのは不幸中の幸いでした。ただ、感染者数は決して少ないとは言えない数ですので、重症化リスクの高い高齢者施設では二度と感染者を出したくないと思っています」と話す。

を招いて、市と台原デイサービスセンター、保健所のスタッフが集まり、率直に意見を出し合って日常の動作の見直しを行い、感染予防のチェックリストを作成、全施設に配布した。対策の基本は「3密」を避け消毒を徹底すること。健康管理の強化として就業前にスタッフの検温を実施し、利用者は送迎車に乗る前と施設に入る前、昼食時、午後2時ごろ、帰りの送迎車

### 感染予防し、正しく備える

清山会医療福祉グループ(仙台市、山崎英樹代表)は、「自立と共生の権理を尊ぶナラティブな関わり」を理念としながら、宮城県内80カ所診療所や介護事業所を展開している。1999年に「いずみの杜診療所」を開設したのが始まりで、認知症疾患医療センターや認知症初期集中支援事業、若年性認知症施策総

合推進事業、地域包括支援センターなどを県や市から受託しており、専門性を生かしながらグループホームや特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、など多様なサービスを提供している。現在の従業員数は約900人、利用者は通所と入所を合わせ約1000人になる。

正しく備えることが大切で感染予防とともに、万一発生したときにクラスターを最小限に抑え込む戦略を持つことが重要」と話す。独自のマニュアルは70ページ近くあり、新型コロナウイルスの特性や予防対策をきめ細かく解説。また、実際の行動指標としてアクションリストを作成し、レベル(1〜4)に合わせた水際対策や日常の感染予防、感染疑い者や感染者が発生した場合の対応(準備を含む)についても具体的に定めている。特に日常の感染予防については「3密」を避けるための換気と消毒を徹底し、感染予防の習慣



テーブルにはアクリル板を設置、飛沫感染を予防している

化を目指している。消毒も施設内の使用頻度に合わせ1日1回以上消毒する低

頻度から1日3回以上消毒する高頻度まで、また、パソコンや車いすなど、使用のたびに消毒するものなどをチェックリストを用いて管理している。送迎車は乗車人数を制限し、乗車時に検温や手指の消毒を行い、使用のたびに車内を消毒している。施設訪問者には入所前に、検温と問診票の記入、手指の消毒、マスクの着用をお願いして

いるほか、スタッフ(希望者)は抗体検査を受けられ、費用の一部はグループが補助する。また、清山会グループでは医療が逼迫して感染者が速やかに入院できない場合に備え、一部の介護施設を無症状、あるいは軽症の感染者向けケア付き宿泊施設に転用する予定だ。グループ内の応援体制を構築し、約200人の職員を選抜して想定訓練を実施している。山崎代表は「ミゼンコクの高い高齢者の命を守ることに、健全な経済活動の推進に不可欠」と話している。

